

第1回

南極・北極SDGs 探究学習コンテスト 応募要項

「南極・北極SDGs探究学習コンテスト」とは

2015年の国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は、「誰一人取り残さない」をスローガンに、2016年から2030年までの15年間に、経済、社会、環境のバランスがとれた持続可能な世界の実現を目指す国際目標で、17の目標と169のターゲットで構成されています。我が国でも様々な分野でSDGs達成への取り組みが進んでいます。教育の分野では、2020年度から実施が始まった新学習指導要領の前文と総則に、「持続可能な社会の創り手になる」が明記され、SDGsの担い手育成がこれからの初等中等教育の重要な柱になりました。

地球温暖化はかつて地球が経験したことがない速さで進行しており、SDGsの担い手には、地球環境の未来像を予測して未解明の課題に果敢に挑戦する行動力が要求されます。南極・北極地域は氷床や海氷の融解によって温暖化が他の地域よりも急激に進行しており、地球環境の未来像を考えるための最適な教材です。さらに、極地という過酷な環境下でフロンティアに挑戦する研究者、技術者、教育者、冒険家らの経験は、「未解明の困難な課題に挑戦する行動力は、未知なるものへの知的好奇心とチームワークから生まれる」ことを教えてください。

「南極・北極SDGs探究学習コンテスト」は、南極・北極地域における環境・生態系、調査・観測・研究活動、環境保護活動、環境負荷の少ないエコ生活、探検・冒険、国際交流など、極地に関係したテーマを選び、探究学習によってそのテーマに挑戦してもらうことによってSDGsの担い手に必要な未解明の課題に挑戦する行動力を養うことを目的とします。(公財)日本極地研究振興会が事業主体となり、極域研究の中核機関である国立極地研究所、極域研究で実績のある大学・研究機関、南極・北極観測支援企業、SDGs支援企業とのパートナーシップによって運営します。

主催・共催・協賛・後援機関

主催：公益財団法人 日本極地研究振興会

共催：株式会社 Gakken

協賛：いすゞ自動車・KDDI・竹中工務店・立飛ホールディングス・多摩信用金庫
東洋羽毛工業・飛鳥建設・フジパン・ヤンマー・レンゴー

後援：国立極地研究所、文部科学省、外務省、環境省、ESD 活動支援センター

応募資格

- ・小学生を代表者とするチーム
- ・チームの条件は、人数が3名以上で、全員小学生、あるいは小学生とその協力者（家族、教員、ボランティア等）

探究学習の進め方

- ・南極・北極に関係したテーマを自由に選び、その探究学習の成果を作品としてまとめてください。探究学習の進め方については、必要な場合は、教員や指導者のアドバイスを受けてください。探究学習がSDGsの17の目標のどの目標につながったかについても述べてください。

作品と応募サイズについて

- ・作品は、文章、イラスト、写真、漫画など、形式は自由で、他のコンテスト等に未発表のもの。
- ・サイズ：A4～A3
- ・ページ数：30ページ以内

著作権の扱い

著作権は応募者に帰属します。情報を引用する場合は、必ず引用元がどこであることを表記してください。

応募要項発表/WEBサイト公開

発表：令和4年9月中頃 毎日小学生新聞
公開：（公財）日本極地研究振興会WEBサイト

応募期間

受付開始：令和4年11月30日（水） 南極・昭和基地の白夜の始まり
応募締切：令和4年12月22日（木） 南極の夏至

応募方法

- ・（公財）日本極地研究振興会WEBサイトからエントリーシートに事前登録してください。（事前登録開始：令和4年9月15日）
- ・「まとめの図」を入れた作品はデジタルデータにして、ホームページより応募してください。またはDVDやUSBメモリーなどに保存して郵送いただいても結構です。（お送りいただいた、メディアは返送いたしません。）

賞について

- ・特別賞：協賛パートナー企業名を冠した賞で、賞状と記念品を応募チームに、副賞（図書カード3万円）を、SDGs探究学習を支援するために、チームの代表が所属する学校に授与（最大10作品）
- ・参加賞：全参加者（小学生）に記念品を授与

授賞式と入賞作品および応募作品の公表

授賞式：令和5年2月 オンラインで実施

特別賞受賞者の公表：令和5年2月

毎日小学生新聞と（公財）日本極地研究振興会のホームページで公表

応募作品の公表：

- ・（公財）日本極地研究振興会のホームページなどで公表
- ・特別賞作品については作品の全ページを公表
- ・その他の応募作品は「まとめの図」（1枚）を公表

審査について

極地研究者、南極観測隊経験者、極地冒険家、SDGs実践校・ユネスコスクール等の教員等で構成する審査委員会で審査

南極と北極地域はSDGsの担い手育成のための最適な教材

1961年に発効した南極条約は、南極地域の平和的利用、科学的調査の自由と国際協力の促進、領土権主張の凍結（地球上で唯一の国境のない大陸）を定め、SDGsの理念であるグローバル・コモンズ（国際公共財）管理の先駆けとなりました。また最大4100mの厚さをもつ南極大陸氷床は、そこに閉じ込められた空気から過去100万年の気候変動を知ることができる貴重なタイムカプセルで、氷の試料から過去の気候変動の解明が進んでいます。

さらに、人間活動の影響が最も少ない南極大陸は、南極オゾンホールの出現に代表されるように、人間活動による地球環境・生態系の変化を先行して知ることができる敏感なセンサーの役割も担っています。

日本は、南極条約の12の原署名国の一つとして、1956年の第1次南極地域観測隊から今日まで、毎年南極に観測隊を派遣し、オーロラ、気象、雪氷、生物・生態系、地学、隕石、寒地工学等の分野でフロンティアへの挑戦が続いています。昭和基地やドームふじ基地など日本の4か所の南極観測基地の建設では、先進的な省エネルギー・低環境負荷技術を開発し利用してきました。また、南極地域での国際協力と環境保護活動の推進にも大きな貢献をしてきました。

一方、北極地域では、夏季の北極海の海水面積はここ30年で半減し、温暖化が加速度的に進行しており、その結果、海からの水蒸気供給量が増え、北極海を取り巻く偏西風の蛇行が強まり、日本でも異常気象が頻繁に起こるようになってきました。そこで北極評議会の下に各国が協力し、北極地域の総合的な観測が始まっています。日本は2020年度から北極域研究加速プロジェクト（ArCSII）を実施中で、新たに北極域研究船の建造も進めています。

このように、南極・北極地域で国際協力の下に実施されている日本の様々な活動は、SDGsの達成に必要な地球環境・生態系の未解明の課題の解明に大きな貢献をしています。さらに、SDGsの担い手には未解明の課題を発見し、発見した課題に果敢に挑戦する行動力が最も大事な能力と考えられますが、極地の厳しい自然環境下での活動経験は、困難な課題に挑戦する勇気が、未知なるものへの知的好奇心とチームワークから生まれることを教えてくれます。南極・北極地域こそSDGsの担い手を育てるための最適な教材です。

探究学習のテーマの例

南極・北極地域における生態系（ペンギン、ホッキョクグマ、アザラシ、クジラ等）、気候変動（温暖化、異常気象等）、環境変動（オゾンホール、ブラックカーボン等）、調査・観測・研究活動（オーロラ、隕石、氷床ボーリング、岩石・鉱物、永久凍土、生物等）、環境保護活動、極限環境下のエコ生活（建物、発電、暖房、車両、通信、医療、汚水・ごみ処理、調理法等）、観測設備開発（バイオリギング、無人観測装置、リモートセンシング、南極観測砕氷船、北極域研究船等）、北極域の利用（北極航路、北極資源等）、極限環境下の安全対策、探検・冒険・観光（南極・北極探検の歴史、現代の極地冒険、極地観光等）、国際関係（南極条約、環境保護議定書、北極評議会等）、閉鎖空間での越冬生活（月・火星有人探査への応用）

探究学習のための教材提供

（公財）日本極地研究振興会は南極・北極探究学習に取り組むための参考資料として以下の教材を提供します。

デジタル教材（ホームページで公開中）

- ・「しらせ」航路と南極観測～4か月にわたる冒険の様子をのぞいてみよう
- ・「みらい」航路と北極観測～ダイナミックに変わる海や空の様子をみてみよう
- ・北極点への挑戦～一人で挑んだ48日間
- ・「南極点」初到達あらいまでの道のり～いちばん早く到達するのはだれ！？
- ・Go To南極海！ようこそ「ゆったりのんびり海鷹丸で行く南極海クルーズ」へ
- ・磁石をもって旅に出よう（基礎編）～大航海時代の航海術を学ぼう！

・磁石をもって旅に出よう（応用編）～北極探検者たちが見つけた磁極の移動

刊行物（割引価格で頒布）

- ・小学生用 SDGs 副読本「南極・北極から地球の未来を考える」（冊子）
- ・小学生用 SDGs 学習プログラム「南極・北極から地球の未来を考える」（冊子）
- ・南極大陸地図、北極域地図、南極半島地図
- ・南極と北極の総合誌「極地」

探究学習サポート・コンサルタント

（公財）日本極地研究振興会が紹介する極地経験者が探究学習のテーマや探究学習の進め方についての相談に対応します。

小学生の皆さんへ

小学校でもSDGsへの取り組みが始まり、皆さんはSDGsのために何ができるのかを考え始めていると思います。SDGsの17の目標と169のターゲットのどれ一つをとってもその達成はとても困難な仕事です。これからSDGsの担い手になる皆さんは、身近にできることだけでなく、困難な課題に挑戦する行動力を養うことが大切です。南極・北極地域の厳しい自然環境下での活動経験は、「困難な課題に挑戦する勇気と行動力は、未知なるものへの好奇心とチームワークから生まれる」ことを教えてくれます。南極・北極SDGs探究学習コンテストにチームで挑戦し、好奇心とチームワークの大切さを学んでください。

先生・指導者の皆さまへ

文部科学省は令和元年度からユネスコ活動費補助金事業として、「SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業」を始めました。日本極地研究振興会が事業主体となって申請した「南極・北極から地球の未来を考えるESD副読本と学習プログラムの開発」が令和元年度から3年連続でこの事業に採択され、様々な機関と連携したコンソーシアムによって事業を進めています。「持続可能な社会の創り手」は、幅広い知識の獲得に加え、異なる意見の人々との議論から新しい課題を見出し、自分のアイデアをまとめるなど、様々な能力が必要となります。厳しい環境下で知的好奇心をもって未知の課題に挑戦した極地経験者にはそうした能力が備わっています。南極・北極をテーマにした探究学習はそうした力を育むためにふさわしい学びの場となるでしょう。ぜひご活用ください。

企業、団体の皆さまへ

南極・北極SDGs探究学習コンテスト実施にあたり、パートナーシップに参加いただける企業様、団体様を募集しております。ぜひご支援をお願い申し上げます。

提出先・問い合わせ先

（公財）日本極地研究振興会 事務局



〒190-0023 東京都立川市柴崎町 2-5-2-503

TEL:042-512-5357 FAX:042-512-5358

お問い合わせメール: contest2022@kyokuchi.or.jp

ホームページ: <https://kyokuchi.or.jp/>

